

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3780264号  
(P3780264)

(45) 発行日 平成18年5月31日(2006.5.31)

(24) 登録日 平成18年3月10日(2006.3.10)

(51) Int. Cl.		F I	
<b>HO 1 L 51/50</b>	<b>(2006.01)</b>	HO 5 B 33/14	B
<b>CO 7 D 209/86</b>	<b>(2006.01)</b>	CO 7 D 209/86	
<b>CO 9 K 11/06</b>	<b>(2006.01)</b>	CO 9 K 11/06	6 4 5

請求項の数 1 (全 14 頁)

(21) 出願番号	特願2003-114193 (P2003-114193)	(73) 特許権者	000001007
(22) 出願日	平成15年4月18日(2003.4.18)		キヤノン株式会社
(65) 公開番号	特開2003-317966 (P2003-317966A)		東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(43) 公開日	平成15年11月7日(2003.11.7)	(74) 代理人	100076428
審査請求日	平成15年4月18日(2003.4.18)		弁理士 大塚 康德
(31) 優先権主張番号	10/131382	(74) 代理人	100112508
(32) 優先日	平成14年4月25日(2002.4.25)		弁理士 高柳 司郎
(33) 優先権主張国	米国 (US)	(74) 代理人	100115071
			弁理士 大塚 康弘
		(74) 代理人	100116894
			弁理士 木村 秀二

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ゲスト-ホスト・エレクトロルミネッセンス系のためのカルバゾール基材料

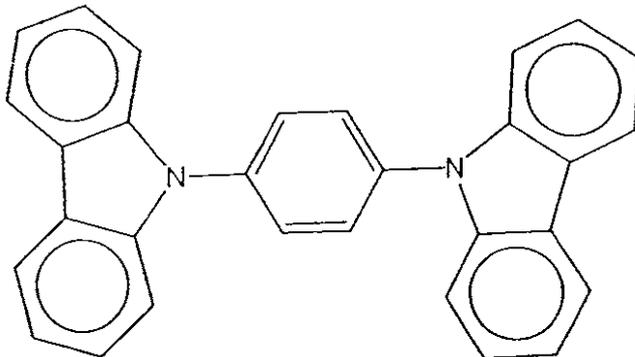
(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

ゲストおよびホストを含んだ、有機発光デバイスに使用するためのゲスト-ホスト発光系であって、

前記ホストは、

【化1】



の構造のカルバゾール基化合物であり、

前記ゲストが前記ホストより小さいバンド・ギャップを有する 燐光 発光化合物であることを特徴とするゲスト-ホスト発光系。

【発明の詳細な説明】

## 【 0 0 0 1 】

## 【 発明の属する技術分野 】

本発明は有機エレクトロルミネッセンス・デバイス（O L E D）における発光層（e m i s s i v e l a y e r）として有用なゲスト - ホスト系を対象とする。より詳細には、本発明は、可視スペクトルの青色領域のような比較的短い発光波長をもつ蛍光および燐光ゲスト発光体（e m i t t e r）を収容するように構成されたホスト材料を対象とする。特に好ましい実施形態において、本発明は燐光を発するゲストを有するゲスト - ホスト系を対象とする。

## 【 0 0 0 2 】

## 【 従来技術 】

有機発光デバイス（o r g a n i c l i g h t e m i t t i n g d e v i c e、O L E D）は通常、酸化インジウムスズ（I T O）のような透明で仕事関数の大きい陽極（a n o d e）、ならびにA l、M g、C aおよびこれらの合金のような仕事関数の小さい陰極（c a t h o d e）の間に、発光材料からなる1層または複数の層を備える。バイアスが電極間に加えられたとき、正電荷（ホール）および負電荷（電子）がそれぞれ、陽極および陰極から、通常それぞれの電極に隣接するホール輸送層および電子輸送層により促進され、（複数の）発光層に注入される。ホールと電子は発光層で結合して光を放出する励起子を形成する。荷電種の移動度に応じて、発光領域の位置は陽極あるいは陰極により近くなり、ある場合にはホール輸送または電子輸送層内のこともある。既知の多層構造体が、例えば、B . R . H s i e h , E d . , 「O r g a n i c L i g h t E m i t t i n g M a t e r i a l s a n d D e v i c e s」M a c r o m o l e c u l a r S y m p o s i a , 1 2 5 , 1 - 4 8 ( 1 9 9 7 ) に開示されており、参照により本明細書に組み込まれる。

## 【 0 0 0 3 】

有機系燐光材料で純粋なフィルムとして蒸着できるものは殆どない。通常、まともな光出力を得るためには、電荷輸送する「小さな」分子あるいはポリマーのいずれかである、ホスト材料とそれらを共蒸着することが必要である。

## 【 0 0 0 4 】

## 【 発明が解決しようとする課題 】

ゲスト - ホスト系としてよく知られるホスト材料には、ホール輸送性 4 , 4 ' - N , N ' - ジカルバゾール - ビフェニル（C B P）および電子輸送性 8 - ヒドロキシキノリンアルミニウム（A l Q<sub>3</sub>）が含まれ、これらは両方ともO L E Dで用いられてきた。しかし、既知のホスト材料はすべてのゲストに適するホスト材料ではない。スペクトルの青色領域のようなより短い発光波長をもつゲストに適するホスト材料が当技術分野において求められている。当技術分野においては、燐光を発するゲストを支持することができるホスト材料が特に求められている。

## 【 0 0 0 5 】

燐光の放出は（蛍光とは対照的に）、励起3重項状態、通常、2個の対電子が同一スピンのもつ第1励起3重項状態（T1）から、よりエネルギーの低い状態、通常、全ての電子が対を成す1重項基底状態（S0）への遷移を含む。O L E D材料における燐光の放出は知られていないわけではないが、1重項遷移に基づく発光（蛍光）に比べて比較的まれである。同じく、3重項遷移に基づくO L E Dは相対的に未開発である。スペクトルの青色領域の発光をする極めて小数の燐光ゲスト発光体が知られているが、このような発光体は次世代の発光材料において重要となるであろう。したがって、これらのゲスト発光体を利用するゲスト - ホスト系に適するホスト材料を開発することは非常に望ましい。

## 【 0 0 0 6 】

O L E D内の効率的な電荷移動、ならびにゲストおよびホスト間の効率的なエネルギー移動ができるように、好ましくは、そのゲスト材料のバンド・ギャップがホスト材料のバンド・ギャップの範囲内にあるように、ホスト材料が選択される。バンド・ギャップあるいはバンド・ギャップ・ポテンシャルは、材料の最高占有分子軌道（H O M O）と最低非占

10

20

30

40

50

有分子軌道 ( L U M O ) の間のエネルギー差として定義される。

【 0 0 0 7 】

さらに、その系が燐光系である場合、ホスト材料の第 1 励起 3 重項状態 ( T 1 ) は、好ましくは、ゲストの第 1 励起 3 重項状態より高い。蛍光系では、ホストの第 1 励起 1 重項状態は通常、ゲストの第 1 励起 1 重項状態より高い。本発明によるホスト - ゲスト系は、青色領域 ( 5 0 0 n m より短い ) のような比較的短い波長をもつゲスト発光体を有する場合でさえ、以下の規準 ( c r i t e r i a ) を満たす。本明細書では、「燐光系」 ( p h o s p h o r e s c e n t s y s t e m ) は、発光強度の大部分が、3 重項からの遷移によるものであり、またいくらかの蛍光放出を全く含まないわけではない発光系を意味する。同様に、「蛍光系」 ( f l u o r e s c e n t s y s t e m ) は、強度の大部分が 1 重項状態からの遷移によるものである発光系を意味する。

10

【 0 0 0 8 】

本発明による特に好ましいゲスト - ホスト系は、青色領域に燐光放出波長をもつゲスト発光体、ならびにゲストの特性発光波長でゲストから主に発光するように、十分に高い励起 3 重項状態 ( T 1 ) をもつホストを含む。

【 0 0 0 9 】

【課題を解決するための手段】

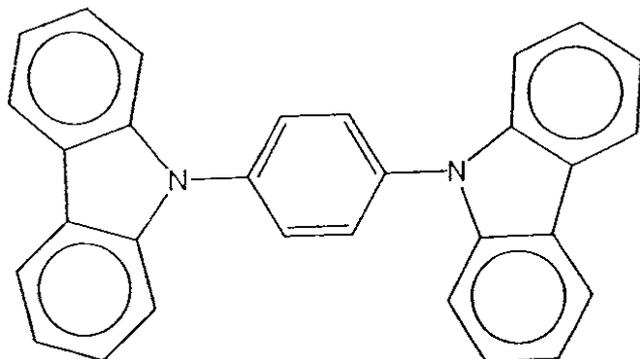
電子供与性官能基に囲まれたカルバゾール誘導体が、発光波長が短いゲスト発光体にとって優れたホスト系 ( s y s t e m ) であることが見出された。これらの化合物は、十分に青色スペクトルとなる発光をするゲストから発光ができるように、十分に大きいバンド・ギャップ、ならびに十分に高い T 1 および S 1 エネルギー状態をもつ。それらはまた、結晶化しようとする傾向がより少なく、形態がより強靱なるといなるさらなる利益をもたらす。

20

【 0 0 1 0 】

上記目的を達成するための本発明に係るゲスト - ホスト発光系は、以下の構成を有する。すなわち、ゲストおよびホストを含んだ、有機発光デバイスに使用するためのゲスト - ホスト発光系であって、前記ホストは、

【化 2】



30

の構造のカルバゾール基化合物であり、

前記ゲストが前記ホストより小さいバンド・ギャップを有する燐光発光化合物であることを特徴とするゲスト - ホスト発光系。

40

【 0 0 2 1 】

以下に記載されるものを含めて、当技術分野において知られておりまた今後開発されるものから、適切なゲスト発光材料を選択することができる。

【 0 0 2 2 】

この短い概要は、本発明の本質を素早く理解することができるように記載された。添付図と関連させて、その好ましい実施形態についての以下の詳細な説明を参照することにより、本発明のより完全な理解を得ることができる。

【 0 0 2 3 】

【発明の実施の形態】

50

本明細書では、ゲスト-ホスト系は、ゲスト発光体化合物がホスト化合物マトリックスにドーブされている系であると理解されている。全体として、系の発光スペクトルがゲストの発光スペクトルに似ているような、ゲスト-ホスト系からの発光が得られることが望ましく、最終的な目的は、可視スペクトルの適当な青、緑あるいは赤色領域での、狭いバンド幅の、高強度の発光である。

**【0024】**

ホストの発光がゲストの発光を妨げないように、また系で光を生成しないような遷移ができるだけ少なくなるように、ホストからゲストへ効率的にエネルギーが移動することが好ましい。効率的なエネルギー移動を促進するための第1の方法として、ゲストのバンド・ギャップがホストのバンド・ギャップの範囲内に入るようにすればよい。

10

**【0025】**

ホストとゲストの間の効率的なエネルギー移動を促進するための第2の方法は、軌道の整列(alignment)に関連する。1重項ホスト/1重項ゲスト系では、ホストの発光スペクトルとゲストの吸収スペクトルとの間に重なりがあるとき、効率的なエネルギー移動が起こる。しかし、ホストの発光スペクトルが1重項に基づき、ゲストの発光スペクトルが3重項に基づく場合、この近似は成り立たない。ゲストの励起3重項状態がホストのそれより高い場合、エキシプレックス(励起錯体exciplex)の形成が通常起こり、良好なエネルギー移動は起こらないであろう。これらの状況では、エネルギー移動を確実に効率的にするために、ゲストのT1状態より高いT1状態をもつホストを選択することが通常好ましい。このことは、ゲストの発光波長がより短くなると実現がより困難になるが、本明細書における発明者等は、適切な電子供与性基をもつカルバゾール基ホスト材料を供用することにより、このことを達成できるということを見出した。したがって、本発明の一態様は、ゲスト発光体のT1エネルギー準位に対する、それらのT1エネルギー準位(実測または計算による)により、適切なホスト材料を識別することにある。

20

**【0026】**

実験的に、あるいは化学構造に基づく近似計算で、バンド・ギャップならびにT1およびS1状態を知ることができる。候補となるホストを選別するために、計算による方法が有利に用いることができる。本明細書で計算値が挙げられる場合、計算は、Windows 2000<sup>TM</sup>(登録商標)を用いるIBM PC<sup>TM</sup>プラットフォームで実施された。構造を描き、Hypercube, Inc. (Gainesville, Florida) が市販するHyperchem 6.0<sup>TM</sup>分子モデル構築ソフトウェアを用いて、予備的な形状の最適化を実施した。構造ファイルを変換し、Hyperchem<sup>TM</sup>内で利用できるMOPAC 6.0プログラム・インターフェース、およびAM1半経験法(一般に公開され利用できるアルゴリズム)を用いて、最終的な形状の最適化を完了した。次に、構造をHyperchem<sup>TM</sup>フォーマットに変換し、理論的なHOMO、T1およびS1励起エネルギー準位を求めるために、ZINDO/S法により、1点CI計算を実施した。これらの値の他の適切な数値計算法も当技術分野において知られているか、あるいは今後開発されることもありうる。

30

**【0027】**

計算されたT1がホスト材料の候補を比較するために用いられる。2つの材料を計算で評価するのに同じ方法を用いると、それらの相対的なT1状態について、したがって、またホスト材料としての相対的な適性について、それなりに正確な情報を与えると考えられる。しかし、計算による方法は、ホスト材料候補の実際のT1エネルギー準位を正確には予想しないであろう。計算による方法を用いて、ホスト材料候補を分析するためには、化合物は、妥当な比較をするために、構造が類似していなければならないとも考えられている。

40

**【0028】**

大きな量子効率を得るために、すなわち注入された電荷が高いパーセンテージで結果として可視光のフォトンを生じさせるように、ホスト材料はデバイス内の電荷輸送(ホールまたは電子)を可能にする。本明細書において記載され、特許請求されるゲスト-ホスト系は

50

全て、ホール輸送能力により特徴づけられるホスト材料を有し、これはそのアリールアミンあるいはカルバゾールの枝によりもたらされる。

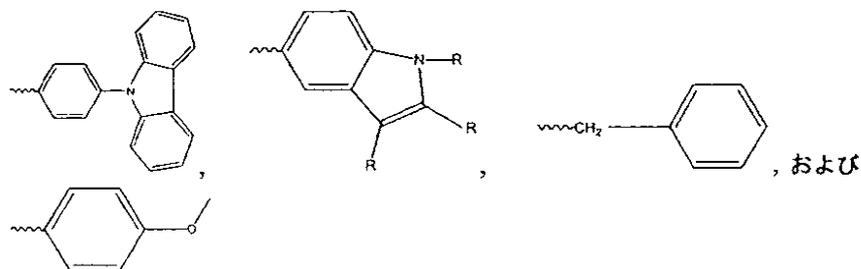
【0029】

第1の実施形態において、ゲスト-ホスト系のホスト材料は、それに結合した、ホール輸送性カルバゾールあるいはアリールアミン部分を有するカルバゾール・コアを含む。カルバゾール・コアの窒素原子に電子供与性化学種が結合して、より高いエネルギーの励起S1あるいはT1状態をホスト材料がもつようになっている。このように、下の式(I)において、R<sub>1</sub>に対する適当な電子供与性基を、置換もしくは無置換アルキル電子供与性基ならびに置換、無置換、もしくはヘテロ置換芳香族電子供与性基から選択することができる。適切な電子供与性基には、限定ではないが、C<sub>1</sub>~C<sub>8</sub>の分岐もしくは直鎖のアルキル、フェニル、

10

【0030】

【化10】



20

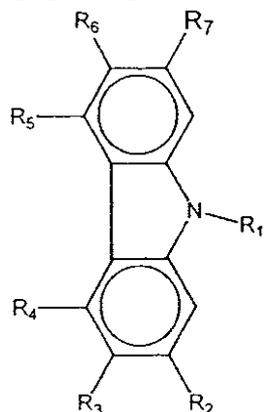
が含まれる。

【0031】

R<sub>2</sub> から R<sub>7</sub> はホール輸送性カルバゾールもしくはアリールアミン基であり、これらは、有利には、それら自体電子供与性基で置換されていてもよい。

【0032】

【化11】



(I)

30

【0033】

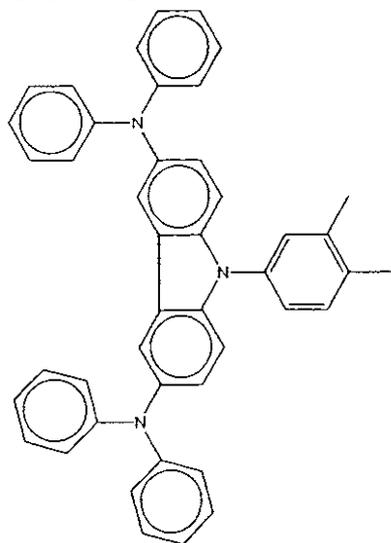
従来技術に、式(I)による化合物の製造方法を見出すことができる。例えば、3,6-ジ(ジフェニルアミノ)-9-アルキルカルバゾールの製造方法が、S. Grivalovicus, et al., 「3,6-Di(diphenylamino)-9-alkylcarbazoles: novel hole transporting molecular glasses」 Synthetic Metals, 122(2001) 311-314に開示されており、参照により本明細書に組み込まれる。R<sub>1</sub>のそこに開示されているアルキル基を、他の電子供与性基で置換することは可能である。ゲスト-ホスト-ルミネッセンス系におけるホスト材料としてのこれらの材料の適合性は、これまで探求されておらず、これらの用途のために適当なカルバゾール含有材料を選択する規準は系統的に利用されてこなかった。最も好ましいホール輸送性基は、次の好ましい実施形態におけるようにジフェニルアミン基である。

40

50

【 0 0 3 4 】

【 化 1 2 】



(II)

10

【 0 0 3 5 】

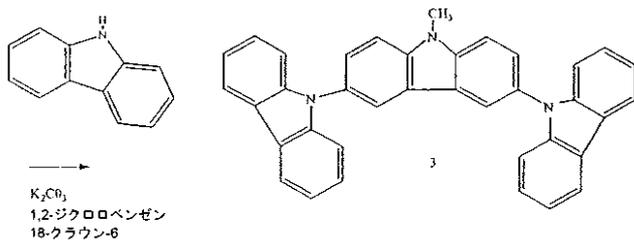
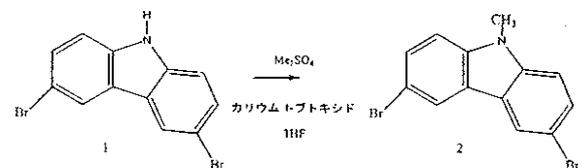
電子供与性基  $R_1$  としてメチルを有する、本発明のこの実施形態による化合物をスキーム 1 に従って製造した。

20

【 0 0 3 6 】

【 化 1 3 】

スキーム 1



30

【 0 0 3 7 】

2.5 g の 3, 6 - ジブromoカルバゾールを、乾燥した窒素充填フラスコに入れ、窒素で 2 回フラッシュした。25 mL の無水テトラヒドロフラン (THF)、ならびに 10 mL の 1.0 M カリウムブトキシドの THF 溶液を、1 mL の硫酸ジメチルと共に加えた。この混合物を一夜還流した。次に混合物を攪拌しながらメタノールに注ぎ、生成物 (2) を固体として回収した。

40

【 0 0 3 8 】

次に 1.417 g のカルバゾール、0.7413 g の銅粉末、2.21 g の炭酸カリウム、および 0.204 g の 18 - クラウン - 6 エーテルと共に、1.226 g の化合物 2 を、乾燥、窒素充填フラスコに入れ、窒素で 2 回フラッシュした。35 mL の 1, 2 - ジクロロベンゼンを加え、混合物を 2 日間還流した。還流後、固体を濾別し、塩化メチレンで洗浄し、棄てた。反応溶液と塩化メチレンを合わせて、この混合物の容積を、回転させながら減圧にして減らした。減容された溶液を放置し、結晶が生成した。溶液と固体を分離

50

し、溶液を、溶離液として最初に 1 : 4 の酢酸エチル / ヘキサン溶液を、次に塩化メチレンを用いて、塩基性アルミナ・カラムに通して溶出させた。発光性の紫色のフラクションを合わせた。結晶を塩化メチレンに溶解し、塩化メチレンを用いて塩基性アルミナ・カラムに通して溶出させた。発光性の紫色のフラクションを合わせた。フラクションを回転させながら減圧にして濃縮し、酢酸エチルに注ぎ、化合物 3 を析出させた。

【 0 0 3 9 】

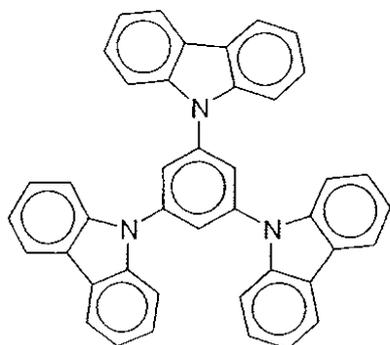
第 2 の実施形態において、本発明によるゲスト - ホスト系は、コアに結合したカルバゾール基と共に、電子が豊富で小さなコアを有するホスト化合物を含む。適切なコア物質には、ベンゼン、フラン、チオフェン、ピロールおよびテトラフェニルメタンが含まれる。

【 0 0 4 0 】

カルバゾール基が結合した小さなコアを有するホスト化合物の例は、トリカルバゾールベンゼン ( T C B ) である。

【 0 0 4 1 】

【 化 1 4 】



(III)

【 0 0 4 2 】

この化合物を次のようにして合成した。

【 0 0 4 3 】

1 . 0 1 7 9 g の 1 , 3 , 5 - トリブプロモベンゼン、2 . 7 6 3 g の  $K_2CO_3$ 、1 . 7 3 4 g のカルバゾール、および 0 . 6 2 5 5 g の Cu 粉末を合わせて、乾燥、窒素充填フラスコに入れ、窒素で 3 回フラッシュした。4 0 m L のニトロベンゼンを加え、混合物をセッティングして 3 日間還流した。還流後、高温の溶液を濾紙で減圧濾過し、次に 1 2 0 m L のメタノールを加えた。沈殿物の形の生成物を濾過により得た。

【 0 0 4 4 】

次に生成物をクロロホルムに再溶解し、溶離液として 8 : 2 の塩化メチレン / ヘキサン溶液を用いて、中性アルミナ・カラムを通して溶出させた。そのフラクションを乾固させ、1 : 4 のクロロホルム / ヘキサン溶液で再結晶した。

【 0 0 4 5 】

特に好ましい実施形態においては、カルバゾール基を電子供与性基で置換してもよい。例は、次の構造をもつ 1 , 4 - ジ ( 3 - フェニルカルバゾリル ) ベンゼンである。

【 0 0 4 6 】

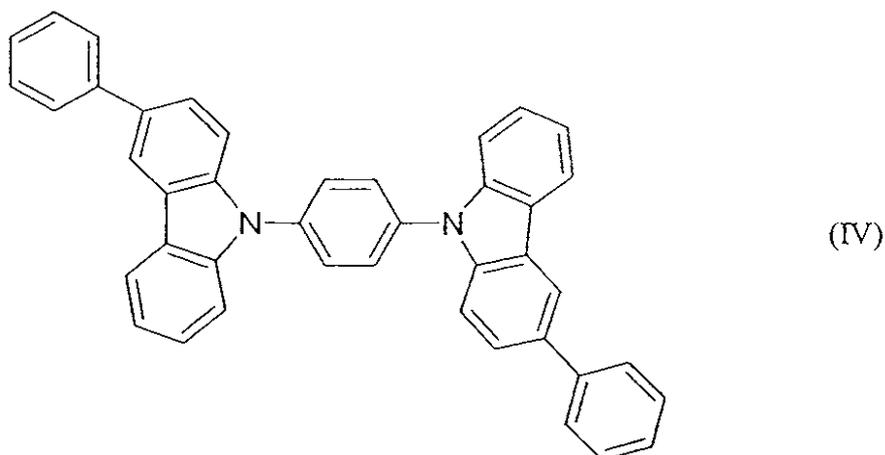
【 化 1 5 】

10

20

30

40



10

## 【0047】

理論に拘束されようとは思わないが、カルバゾール基に結合する電子供与性基は、カルバゾール基の電子供与能力を高め、このことが転じて全体として材料のT<sub>1</sub>状態を高くすると考えられている。いくつかの例において、1個または複数のカルバゾール基に結合する基は、通常は電子供与性であると言われていても、その全体としての効果はカルバゾールの電子供与能力を低下させることであるような共役度をもつ。したがって、下記の化合物 (IX) および (X) の縮合ベンゼン環のような基は、カルバゾール基では好ましくない置換基である。

20

## 【0048】

前記化合物 (IV) を合成するために、中間体である、3-フェニル-1,2,4-トリヒドロ-カルバゾールを次のようにして合成した。フラスコに、フェニルヒドラジン (2.16 g、2 mmol)、4-フェニルシクロヘキサノン (3.48 g、2 mmol)、1 mL の HCl および 20 mL の酢酸を加えた。この混合物を N<sub>2</sub> のもとで一夜還流した。冷却後、生成物を濾過し、水で洗浄し、メタノールから再結晶した。得られた収量は 2.8 g (56%) であった。示差走査熱量測定 (DSC) による測定では、この化合物は 131 の融点 (T<sub>m</sub>) を示した。

## 【0049】

次に、中間体生成物を、5%パラジウム・チャコールを用い、250 で30分かけて脱水素して、3410 cm<sup>-1</sup> (NH) のIR (ニート) ピーク、およびDSCにより測定された融点T<sub>m</sub> = 221 をもつ3-フェニル-カルバゾールを得た。

30

## 【0050】

次に、この3-フェニルカルバゾール (0.729 g、3 mmol)、1,4-ジヨードベンゼン (0.495 g、1.5 mmol)、同粉末 (0.19 g、3 mmol)、K<sub>2</sub>CO<sub>3</sub> (0.828 g、6 mmol)、および18-クラウン-6エーテル (60 mg、0.23 mmol) を、冷却器を取付け乾燥した丸底フラスコに入れた。この系を少なくとも2回、脱気およびN<sub>2</sub> パージした。N<sub>2</sub> のもとで、1,2-ジクロロベンゼン (6 mL、b.p. 180) を加え、混合物を2日間還流した。高温溶液をシリカ床で濾過して、固体を除いた。濾液をメタノールに滴下し、沈澱を濾過し、メタノールで洗浄した。生成物である1,4-ジ(3-フェニルカルバゾリル)-ベンゼンをトルエンから再結晶して精製した。実測の収量は0.50 g (60%) であった；T<sub>m</sub> = 277 。

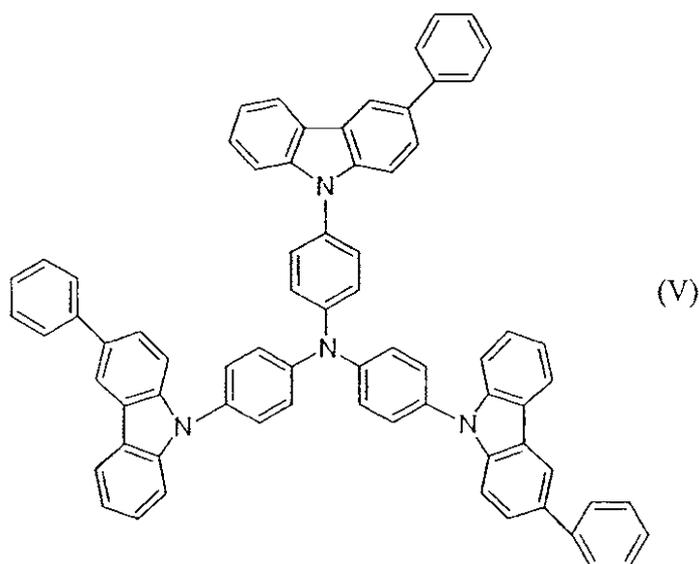
40

## 【0051】

別の例は、p', p', p''-トリ(3-フェニルトリカルバゾリル)トリフェニルアミン(3-ph CTPA)である。

## 【0052】

## 【化16】



10

## 【0053】

適切なゲスト発光体材料には、現に知られているかあるいは今後開発されるかのいずれかである、何らかの可視発光波長を有する、蛍光および燐光発光体が含まれる。ディスプレイ用途では、可視スペクトルの赤、緑あるいは青色部分にピークがある発光体が特に好ましい。本明細書に記載された計算による方法を用いて、候補となるホスト材料を、その材料そのものを合成する前に、選択することが可能である。しかし、計算による方法は、類似の物質の間でのT1のエネルギー準位に関する傾向についてのみ信頼しうる情報を与え、特定の化合物に対する実際のT1準位を与えないということを認めなければならない。

20

## 【0054】

赤、緑、青、白および黄色のいくつかの適切な蛍光ドーパントが、B. R. Hsieh, Ed., 「Organic Light Emitting Materials and Devices」 Macromolecular Symposia, 125, 1-48 (1997) に記載されており、参照により本明細書に組み込まれる。

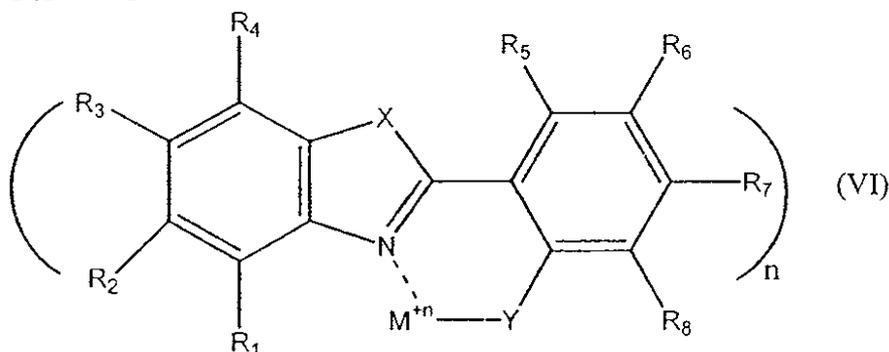
## 【0055】

燐光ドーパントは比較的新しいものである。Irppy3は、緑色の燐光を発生し、実施例で用いられている。一連の青色燐光発光体が、WO 01/39234に開示されており、次の構造をもち、

30

## 【0056】

## 【化17】



40

Mは金属（亜鉛など）を表し；XおよびYは独立にOまたはSであり；nは1から3の整数であり；またR<sub>1</sub>からR<sub>8</sub>は独立に、水素、アリールまたはアルキルである。WO 01/39234は、参照により本明細書に組み込まれる。

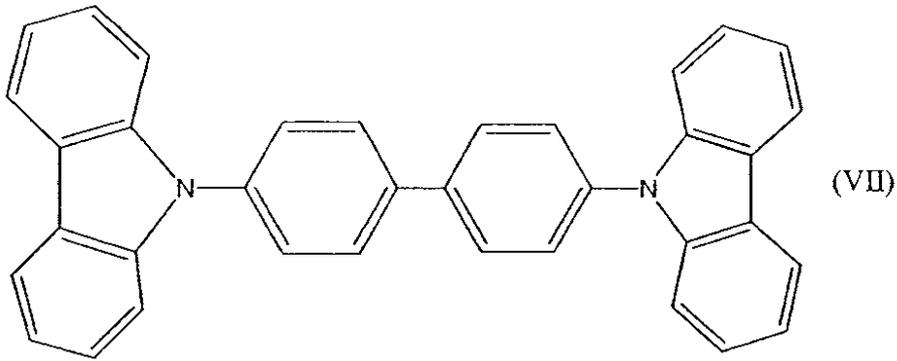
## 【0057】

本発明によるホスト材料の適合性を、次の構造をもつ、標準的なホストであるCBPとの比較で例示することができる。

50

【0058】

【化18】



10

【0059】

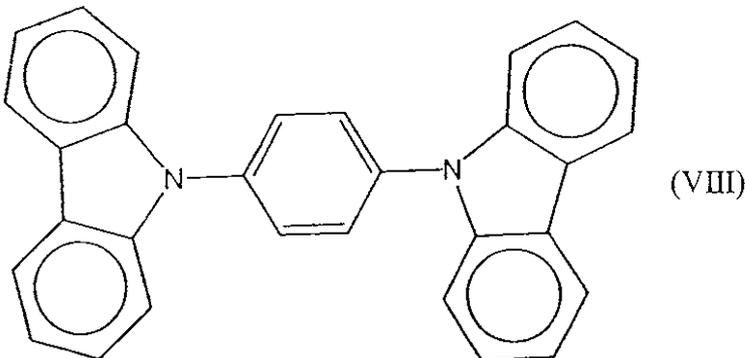
CBPは、約475nmに近い波長およびそれ以下のゲスト発光体に対しては、CBPがこの波長に発光ピークをもつので、通常適切なホストではない。本明細書における発明者等は、カルバゾール部分に電子供与性基を付けるか、あるいはそれに結合するカルバゾール部分をもつ、電子が豊富で小さなコアを用いることにより、より短い波長の発光性ゲストを収容するように、ゲストに対するホストの第1の1重項または3重項励起状態が高くなるということを見出した。

【0060】

例えば、化合物1,4-ビス(カルバゾリル)ベンゼン(CCP)は次の構造をもち、

【0061】

【化19】



20

30

コアがベンゼンであってピフェニルではないということ以外は、CBPに似ている。CCPの励起3重項状態はCBPのそれより高い。CCPを、より低い第1の励起1重項あるいは3重項状態をもつゲストと共に、ゲスト-ホスト系のホストとして用いることは本発明の範囲内にある。

【0062】

【表1】

表1

	T1 最大値	T1 ピーク
CBP	2.81	2.67
CCP	3.08	3.02

40

【0063】

CBPおよびCCPの合成は、B. E. Koene, et al., 「Asymmetric Triaryldiamines as Thermally Stable Ho

50

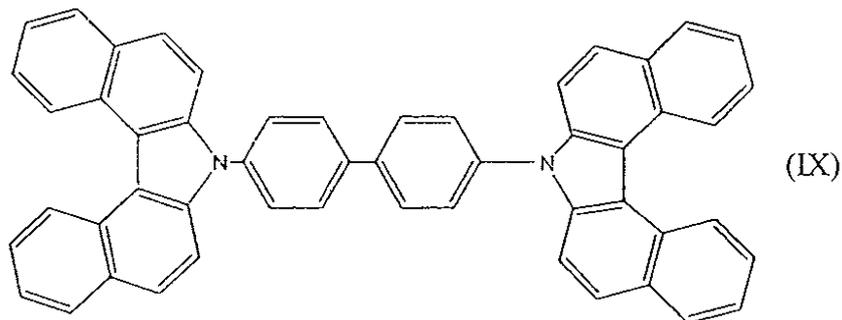
le Transporting Layers for Organic Light Emitting Devices, Chem. Mater. Vol. 10, No. 8, 2235-2250 (1998)に記載されており、参照により本明細書に組み込まれる。

【0064】

比較例として、CBP類似物であり、次の構造をもつ、1,4-ビス-ジベンゾカルバゾリルジフェニル(db-CBP)を、Ullmanのカップリング反応を用いて調製した。

【0065】

【化20】



10

【0066】

ゲスト-ホスト系においてホストとしてこの化合物を用いることは、ビフェニル・コアのために、本発明の範囲外であろう。また、カルバゾール基上の縮合ベンゼン環はカルバゾール基の電子供与性を弱め、T1を低くする。

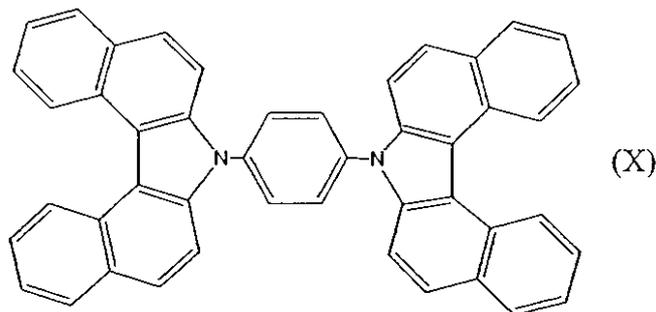
20

【0067】

さらなる比較例として、次の構造をもつ1,4-ビス-(ジベンゾカルバゾリル)ベンゼン(db-CCP)を調製した。

【0068】

【化21】



30

【0069】

カルバゾール部分の縮合ベンゼン環は、カルバゾールの電子供与性を低下させるので、ゲスト-ホスト系のホスト材料としてこの化合物を使用することは好ましいことではないであろう。このような材料は、500nmより短い(青色領域にある)特性発光波長をもつ発光体に対する良好なホストではないかもしれないが、赤または緑色のゲスト発光体に対しては適切なホストでありうる。

40

【0070】

TCBおよび3-ph TCBを含む前記の化合物を、Irppy<sub>3</sub>ゲスト発光体ドーパントを用いてOLEDで試験した。全ての有機層を、10<sup>-4</sup>Paで、酸化インジウム・スズ(ITO)上に、ULVAC加熱蒸着チャンバで加熱蒸着により蒸着した。日本の同仁化学研究所から購入した、N,N'-ビス(1-ナフチル)-N,N'-1-ジフェニル-1,1'-ビフェニル-4,4'-ジアミン(-NPB)の層を40nmの厚さに蒸着し、続いて、ホスト材料にドーパされたIrppy<sub>3</sub>(5%wt/wt)からなる厚さ4

50

0 nmの発光層、厚さ10 nmのバソクプロイン(Bathocuproine、BCP)からなる励起子ブロック層、および厚さ400 nmのAlQ<sub>3</sub>・Irppy<sub>3</sub>からなる電子輸送層を蒸着し、AlQ<sub>3</sub>およびBCPは日本の同仁化学研究所から入手した。150 nmのアルミニウムで被覆された10 nmのアルミニウム-リチウム合金(ALLi)(Li 1.8 wt%)をカソードとして蒸着した。

【0071】

前記OLEDの光放出(photoemission)を、日立F-4500分光蛍光光度計で光ルミネッセンスを用いて測定した。結果が、各化合物に対するルミネッセンス効率、T1測定値(最大値)、T1測定値(ピーク)およびHOMO計算値を含めて、下の表2にまとめられている。傾向を示すT1の計算値もまた与えられている。

【0072】

【表2】

表2

ホスト	HOMO (計算値)	T1 (計算値)	T1 (最大値)	T1 (ピーク)	ルーメン/W
CBP	-7.22	0.01	2.81	2.67	6.2
db-CBP	-6.95	-0.39	2.45	2.38	<0.3
CCP	-7.25	-0.06	3.08	3.02	0.7
db-CCP	-6.95	-0.39	2.42	2.37	0.01
TCB	-7.60	0.11	3.07	2.82	1.8
3-ph TCB	-6.93	0.10	2.92	2.82	12.2

【0073】

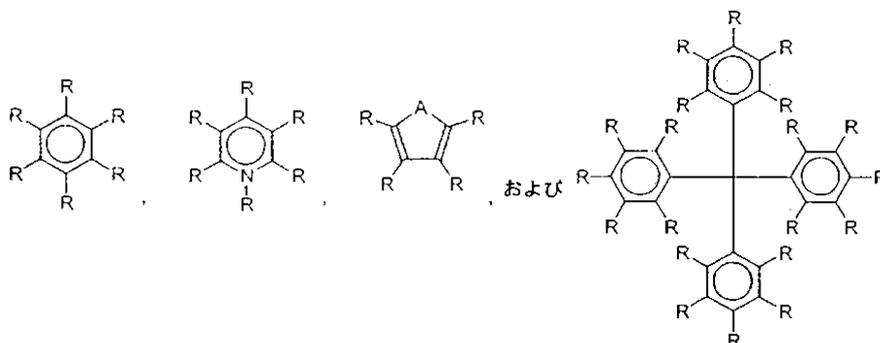
こうして、短波長発光性ゲストにとってCBPより優れたホスト材料が、電子が豊富なコアにカルバゾール基を付けることにより得られ、電子供与性基をそのカルバゾール基に付けることによりさらに有利にそれを修飾することができる。

【0074】

コアに結合したカルバゾール基と共に、電子が豊富で小さなコアを有するホスト材料化合物を次の式により表すことができ、

【0075】

【化22】



AはO、SまたはNであり、少なくとも2個のRはカルバゾールまたは置換されたカルバゾールである。適切なゲストは、このホスト化合物より低い第1励起3重項状態をもつ、約500 nmより短い波長の燐光発光体でありうる。

【0076】

前記の具体例は、例示のためであるにすぎず、本発明の限定であると見なされるべきで

10

20

30

40

50

なく、本発明は特許請求の範囲により限定される。

**【発明の効果】**

上記CCP(1,4-ビス(カルバゾリル)ベンゼン)により、短波長発光性ゲストにとってCBPより優れたホスト材料が、電子が豊富なコアにカルバゾール基を付けることにより得られる。

---

フロントページの続き

(72)発明者 トラヴィス トムス

アメリカ合衆国 カリフォルニア州 92612, アーバイン, イノベーション ドライブ 1  
10 キヤノン デベロップメント アメリカス, インコーポレイテッド 内

(72)発明者 ジャンピン チェン

アメリカ合衆国 カリフォルニア州 92612, アーバイン, イノベーション ドライブ 1  
10 キヤノン デベロップメント アメリカス, インコーポレイテッド 内

審査官 里村 利光

(56)参考文献 特開2002-100476(JP, A)

特開2002-117978(JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

H01L51/50-51/56

专利名称(译)	用于客体 - 电致发光系统的咔唑基材料		
公开(公告)号	<a href="#">JP3780264B2</a>	公开(公告)日	2006-05-31
申请号	JP2003114193	申请日	2003-04-18
[标]申请(专利权)人(译)	佳能株式会社		
申请(专利权)人(译)	佳能公司		
当前申请(专利权)人(译)	佳能公司		
[标]发明人	トラヴィストムス ジャンピンチェン		
发明人	トラヴィストムス ジャンピン チェン		
IPC分类号	H01L51/50 C07D209/86 C09K11/06 H01L51/30		
CPC分类号	H01L51/0059 C09K11/06 C09K2211/1011 C09K2211/1014 C09K2211/1022 C09K2211/1029 H01L51/0052 H01L51/006 H01L51/0072 H01L51/0081 H01L51/5016 H01L2251/308		
FI分类号	H05B33/14.B C07D209/86 C09K11/06.645		
F-TERM分类号	3K007/AB02 3K007/AB03 3K007/AB04 3K007/DB03 3K007/FA01 3K107/AA01 3K107/CC11 3K107/CC45 3K107/DD53 3K107/DD59 3K107/DD67 3K107/DD68 3K107/DD69 3K107/FF13 4C204/BB05 4C204/BB09 4C204/CB25 4C204/DB01 4C204/FB03 4C204/FB16 4C204/GB01 4C204/GB32		
代理人(译)	大冢康弘		
优先权	10/131382 2002-04-25 US		
其他公开文献	JP2003317966A		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

摘要(译)

要解决的问题：提供适用于有机发光器件的宾主发光系统。解决方案：在一种模式中，主体材料包括与氮键合的给电子化学物质和具有与单个或多个碳原子键合的芳族胺基的化合物，或具有咔唑基的咔唑核。在另一种方式中，主体材料包括具有单个原子的化合物或与单个或多个咔唑部分键合的单环核，其本身可以被供电子基团取代。所公开的主体材料具有大带隙电位和高能激发三重态，以通过伴随其的客体材料发射短波长磷光。Z

前記ホストは、

【化1】

